

科学トレ NEWS LETTER

東京オリンピックを終えて ～そして次につなげるために～

2021 vol. 1

「さあ、パリオリンピックに行くぞ！」 光仁会木島病院整形外科 北岡克彦

令和3年7月8日、1年延期された**東京オリンピック**の観客の扱いについて代表者会議は、都内の会場は無観客とすることを決め、そのあと神奈川、千葉、**埼玉**の会場の無観客も決まりました。1年前、**安倍晋三**元首相が表明した「完全な形で開催」はかなわず、**緊急事態宣言**下で開催し、大半の会場が無観客となる異例の五輪となりました。

無観客となりましたが選手、役員の救護は必要であるため、私が日本ハンドボール協会の医事委員をしている関係で木島病院から私のほか看護師3人とリハスタッフ2人がメディカルサポートスタッフとしてオリンピックに参加しました。最初は東京に行って事前講習を受けなければならない予定でしたがコロナ対策のせいですべてリモートのイーラーニングとなり、ぶっつけ本番で会場に入りました。幸い重症者もなく、観客のいないハンドボールゲームはもちろん盛り上がりには欠けてはいましたが、世界最高レベルのプレーをすぐ目の前で見ると感動は言葉に表せないくらい素晴らしいものでした。できれば観客のいる状態でもう一度この場にいたいと思いましたがかなわぬ夢とあきらめていました。なぜなら、自分としては区切りとしていた東京オリンピックが終了し、年齢も60歳なのでハンドボールの一线でのサポートからは降りようと思っていましたし、次はいつオリンピックに出られるかわからないからです。

しかし、次のパリオリンピックを目指す監督が大阪体育大学の楠本君に決まり、北國銀行には彼の教え子たちがたくさんいるし、周りからも強く勧められたため、1週間悩みましたが最終的には女子代表のメディカルサポートチーフを引き受けることにしました。

海外帯同とかしんどいし、病院にも迷惑をかけると思いますが、あと3年間人生に悔いが残らないように頑張ってみます。



ハンドボールの会場となった代々木体育館でのスタッフ集合写真



コートサイドで待機する木島病院スタッフ



試合を終えた北國銀行の選手たち